

研究の概要

1. 研究の趣旨・及び目的

○現場における課題

平成 21 年度に告示された特別支援学校の学習指導要領では、在籍する幼児児童生徒の障害の重度・重複化、多様化に対応し、一人一人の教育ニーズに即した適切な教育や必要な支援を行う観点がより明確になっている。しかしながら、学校現場においては、特に重度・重複障害のある幼児児童生徒の指導や支援の PDCA の過程について困難さを感じている教員が多い。その理由としては、以下のことが考えられる。

- ①実態把握すべき領域が多領域にわたり、各領域を関連づけて把握する必要があること
- ②障害の状態や生活・学習環境によってニーズが個々に異なってくる場合があること
- ③実態把握から得られた情報を基に目標や指導内容を設定するにあたっての明確な指針がないこと
- ④その発達や変化が微細でまたゆっくりであるため、幼児児童生徒の持つ力を評価したり、教育や支援の成果を確認したり、将来的な見通しを持ったりすること等が困難になりがちなこと

○課題解決の方策

上記の課題をうけて、特別支援学校における重度・重複障害のある幼児児童生徒の個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と、それに基づく適切な教育の実施について、その課題解決の方策を提案することが望まれる。

将来的な研究（専門研究 B）の目的は、重度・重複障害のある幼児児童生徒の的確な実態把握や、目標と指導内容の設定、適切な評価と指導・支援の改善という PDCA の過程に必要な視点や情報を提供する活用パッケージを作成し、現場での活用のしやすさや有用性を検証することである。

本研究はその予備的研究として、現場における現状把握と課題の分析、及び課題解決の提案のためのデータと資料の収集を行うことを目的とする。

2. 研究計画と方法

専門研究 B への移行を考慮し、以下の研究活動について 3 年計画で実施することとする。

- (1) 学校現場等における課題の整理
- (2) 国内外の文献研究
- (3) 活用パッケージに含む事項の選定
- (4) 選定した項目についての情報収集
- (5) 活用パッケージの試作
- (6) 協力校における活用パッケージ（試作）活用
- (7) 協力校からのフィードバックと内容の確定

本年度実施する専門研究 D では、前述した研究内容のうち（１）（２）（３）を中心に行い、次年度の専門研究 B の実施に向けての具体的な研究計画を立案する基礎資料とする。さらに、（４）として、選定した項目のうちいくつかについてはパッケージ試作に向けての情報収集と整理をすすめる。

3. 平成 24 年度 専門研究 D における研究活動計画の実施状況

上記の研究計画に基づき、本年度実施した専門研究 D では、以下の研究活動を行った。本研究活動報告書では、上記の 4 つの研究活動の経過と概略を報告する。

研究活動 1. 学校現場における課題の整理

- ・専門研修員からの情報収集 及びその後のメール等による情報収集（6 月～）
- ・学校訪問による観察とインタビュー（6 つの特別支援学校で実施）
- ・卒後の施設等の訪問による観察とインタビュー（3 つの施設で実施）
- ・紀要投稿「重複障害教育に携わる教員の専門性のあり方とその形成に関する一考察～複数の異なる障害種別学校を経験した教員へのインタビューを通して」（前回の研究で得たデータを整理したものであるが、本研究における学校現場の課題整理に寄与する研究活動であった）

研究活動 2. 文献の収集・整理

- ・国内外の個別の指導計画立案等に関する文献
- ・本研究所の旧重複障害教育研究部の事例集からの検討（途中経過）

研究活動 3. 活用パッケージに含む事項の洗い出しと選定

上記の研究活動 1、2 を進めつつ、研究分担者、研究協力者間でディスカッションを行い、活用パッケージの項目案を作成した。項目案については、11 月以降の学校訪問等でフィードバックをいただいた。現時点の項目案はそれらを反映したものである。

研究活動 4. 選定した項目についての情報収集と活用パッケージ分冊（案）の試作

上記の項目案のうち 2 項目については、情報活用パッケージの分冊案を作成した。（文献情報、過去に実施した研究等より関連情報の収集・整理を行っている）

4. 研究体制

研究代表者： 齊藤由美子（企画部 主任研究員）

研究分担者： 熊田華恵 （教育研修・事業部 主任研究員）
大崎博史 （教育研修・事業部 主任研究員）

所内研究協力者： 長沼俊夫 （企画部 総括研究員）
笹本 健 （客員研究員）

